

38:1 そのころのことであつた。ユダは兄弟たちから離れて下って行き、名をヒラというアドラム人の近くで天幕を張った。

38:2 そこでユダは、カナン人で名をシュアという人の娘を見そめて妻にし、彼女のところに入った。

38:3 彼女は身ごもって男の子を産んだ。ユダはその子をエルと名づけた。

38:4 彼女はまた身ごもって男の子を産み、その子をオナンと名づけた。

38:5 彼女はまた男の子を産み、その子をシェラと名づけた。彼女がシェラを産んだとき、ユダはケジブにいた。

38:6 ユダはその長子エルに妻を迎えた。名前はタマルといった。

38:7 しかし、ユダの長子エルは【主】の目に悪しき者であつたので、【主】は彼を殺された。

38:8 ユダはオナンに言った。「兄嫁のところに入って、義弟としての務めを果たしなさい。そして、おまえの兄のために子孫を残すようにしなさい。」

38:9 しかしオナンは、生まれる子が自分のものとならないのを知っていたので、兄に子孫を与えないように、兄嫁のところに入ると地に流していた。

38:10 彼のしたことは【主】の目に悪しきことであつたので、主は彼も殺された。

38:11 ユダは嫁のタマルに、「わが子シェラが成人するまで、あなたの父の家でやもめのまま暮らしなさい」と言った。シェラもまた、兄たちのように死ぬといけなかつたからである。タマルは父の家に行き、そこで暮ら

した。

ユダもまた父ヤコブと同じように、異教の人々と同化してしまう道を選んでしまいました。兄弟たちから「離れて下って」とありますから、アブラハム、イサク、ヤコブに揭示なさった神とともに生きる共同体から離れてしまったのです。理由は書かれていませんからその必要はなかつたでしょう。神の共同体から離れてしまうということに問題の始まりがあるのです。

同化の最も顕著なものは結婚です。ユダの結婚の動機はただ「娘を見そめて」でした。神のご計画による祝福がその子孫にまで及ぶという、すばらしい約束を第一としないうで、祝福の基である神への信仰をないがしろにした結婚だったので。子どもたちもまた現地の異教の民との婚姻でした。神のみこころに従わない生き方は次世代に影響します。長男エルは主を怒らせるような罪を行いました。

当時兄が死ぬとその子孫を残すために、弟が兄嫁と結婚し子どもをもうけるという習慣がありました。しかし、弟オナンはその義務を果たすように見せかけて、子どもができないようにしていたのです。子どもができると、それは兄の子どもとしての立場になります。財産を取られることになるからです。

ユダの対処はシェラをひたすら守ろうとすることでした。2人の息子が死ななければならなかつたその原因が、不信仰・不従順にあつたことに気づかないか、または目をつぶってしまったのです。すべては神様の側から見てみなければなりません。

ことの始まりは神の共同体からの離脱です。そして神のみこころと計画を無視した結婚。そして神を第一としない家庭環境です。ユダは父ヤコブの失敗からそれを学ぶべきでしたが、それをしなかつたのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

